

# 「緊急地震速報を適切に利用するために必要な受信端末の機能及び配信能力に関するガイドライン」

## 対応状況公開資料(概要版)

公開日：平成 24 年 5 月 28 日

最終更新日：平成 26 年 5 月 15 日

株式会社かなめ技術開発  
予報業務許可第 190 号（地震動）

本資料は、平成 23 年 4 月 22 日に気象庁から公開された「緊急地震速報を適切に利用するために必要な受信端末の機能及び配信能力に関するガイドライン」への当社地震動予報業務許可（許可第 190 号）を使用している製品の対応状況を公開するものです。「予報業務の許可等に関する審査基準、標準処理期間及び処分基準（通達）」（平成 24 年 2 月 23 日制定、平成 24 年 3 月 1 日適用）では、許可事業者は利用者にガイドラインの「端末利用者が施す措置の一覧表」掲載の各項目に対する対応状況について利用者に十分な説明を行うことが義務づけられました。本資料は、それらに対する適合状況を公開するものです。

製品名	鉄道事業者向け緊急地震速報受信システム Quick-i
製造年月日	平成 19 年 8 月
提供形態	アイテック阪急阪神株式会社から販売
動作環境	Windows PC 上で動作するソフトウェア。 対応可能配信事業者・サービス：アイテック阪急阪神株式会社
使用目的	A. 機械・館内放送設備等の自動制御 B. オペレータを介した機械・館内放送設備等の制御

鉄道事業者向け緊急地震速報受信システム QUICK-i

	項目	適合状況説明	備考
1	気象庁が緊急地震速報(予報)を発表してから端末が報知または制御を開始するまでに要する時間	気象業務支援センターから緊急地震速報(予報)を配信してから端末に緊急地震速報(予報)が届き、画面表示を開始するまでに要する時間は1秒以下です。	詳細版の(1)-2, (4)-1を参照。
2	気象庁から端末まで、配信をときれさせないような対策	気象庁から配信サーバーまでは回線・サーバーを冗長化することによって、配信を途切れさせないような対策を取っています。 配信サーバーは端末の接続状態を監視しており、端末は自己診断機能により受信画面、ネットワーク信号灯、表示端末で異常を通知します。	配信側の具体的な対策については、詳細版の(4)-2, 8を参照。 端末の自己診断機能については、詳細版の(1)-1, 7を参照。
3	時刻合わせ	端末には NTP サーバーによる時刻校正機能があります。配信サーバーが NTP サーバーの機能も有しています。 配信サーバーは、インターネット上の NTP サーバーにアクセスし、時刻校正を行っています。	端末の時刻校正機能については、詳細版の(2)-2を参照。 配信サーバーの時刻校正機能については、詳細版の(4)-6を参照。
4	配信・許可事業者によるサポート	配信・端末に関する問い合わせ窓口はアイテック阪急阪神が行っています。	サポート内容の詳細については、詳細版の(5)-1 から 8 を参照。
5	耐震固定等地震の揺れへの対策	本製品はソフトウェア製品であり、ソフトウェアをインストールしたパソコンを、耐震固定具等を利用して固定してください。	詳細版(1)-6に記載。
6	無停電化	ソフトウェアをインストールした PC に無停電電源装置等を接続して対応することが可能ですが、無停電化される場合は周辺通信機器等 PC 以外の機器についても必要です。	導入時に相談いたします。
7	端末の冗長化	コールドスタンバイ等の冗長化構成をご提案することは可能です。	導入時に相談いたします。
8	回線 常時接続できる回線 専用線などの信頼性の高い回線	使用目的に応じて推奨する回線をご提案しています。専用線・インターネット VPN での接続が可能です。	導入時に相談いたします。
9	サーバー端末間の物理回線の冗長化	対応可能です。目的に応じて推奨構成をご提案可能です。	導入時に相談いたします。
10	予想した猶予時間	猶予時間の設定機能があり、古い情報は使用しない動作が可能です。予想した猶予時間は PC 画面表示と表示端末でカウントダウン表示を行います。	詳細版(3)-1, (3)-4に記載。
11	予想した震度	端末を動作させる震度の設定機能があります。予想した震度は PC 画面と表示端末画面に表示します。	詳細版(3)-1, 2, 4を参照。

鉄道事業者向け緊急地震速報受信システム QUICK-i

1 2	精度情報	設定機能があります。起動条件は、「震源決定手法を条件としない」「2点以上の処理のみ採用」の中から選択します。100ガル超えは使用しません。表示画面ではどの条件で表示しているかは示しません。	詳細版(1)-12, (3)-5, 6を参照。
1 3	深発地震についての緊急地震速報(業)	震源の深さが200kmより深いものについては使用しません。	詳細版(3)-9に記載。
1 4	放送・報知内容	PC画面表示・ネットワーク信号灯・表示端末を使って行います。音声による報知は行わず、機器に内蔵されている報知音を使用します。 また、16点の接点を持ち、接点ごとに対象評価地点としきい値震度を設定可能です。キャンセル時にも出力可能です。	詳細版(1)-8, (3)-3, 4を参照。
1 5	緊急地震速報(業)で制御、放送、報知を行った後に同一地震または別の地震について提供される緊急地震速報(業)	PC画面表示・ネットワーク信号灯・表示端末については、「随時更新」「ピークホールド」(予想震度がより大きいときのみ更新)「初期値ホールド」(更新なし)から動作を選択できます。このロジックはPC画面を閉じるか指定時間経過まで別の地震に対しても有効です。 外部接点出力については、1地震についてはキャンセルを除いて1回のみ出力となります。	詳細版(3)-7, 8に記載。
1 6	キャンセル報	既に出力を行った地震に関してキャンセル報を受信した場合には、画面表示で「キャンセル報」と表示します。動作していない緊急地震速報(予報)に関するキャンセル報を受信しても何もしません。表示装置・外部接点出力についても同様の動作です。	詳細版(3)-10に記載。
1 7	試験	端末から配信サーバーに対して動作試験のための電文を要求する機能があります。画面表示では、それがテスト電文であると分かる表示を行います。テスト報は本番と同じ形式でネットワーク信号灯・表示端末へも出力にも送信されます。外部接点出力も行う場合には、パスワード入力が必要です(誤操作防止のため)。	詳細版(1)-9,(3)-12に記載。
1 8	訓練	誤動作防止のため常に破棄します。訓練を行う場合には、上記試験機能を使用します。	端末機能については、詳細版(1)-10,(3)-11に記載。
1 9	配信・許可事業者への連絡	配信・端末に関する問い合わせ窓口はアイテック阪急阪神が行っています。	サポート内容の詳細については、詳細版の(5)-1から8を参照。

以上

更新履歴

平成 24 年 5 月 28 日	Version 1	初版
平成 26 年 5 月 15 日	Version 2	許可番号変更